

国際社会における女性と体育

— ベトナムの体育教育の事例 —

杉 野 俊 子

三 村 由 紀

Women and Physical Education in the Globalized World

— In Case of PE in Vietnam —

SUGINO Toshiko, MIMURA Yuki

はじめに

公の場における女性のスポーツ参加を禁じていたサウジアラビアが、ロンドンオリンピックより女性選手にもオリンピックの門戸を開けた。今やスポーツの祭典となったオリンピックであるが、「スポーツは男性専用のもの」として、学校では女子の体育教育が禁じられているなど、女性のスポーツを厳しく制限している国が、女性選手の出場を始めて許したのである（産経 EX 2012）。

日本では、ロンドンオリンピック代表に続々と女子選手が決まりメディアを賑わしている昨今であるが、女性とスポーツの関わりは、欧米諸国では一部の上流階級の人々にだけ許されたものとしてはじまった。例えば、「オリンピックの父」と呼ばれるピエール・ド・クーベルタンが、フランスの貴族（男爵）であったことは周知のことである。彼は、教育の一環としての規律を守るスポーツが、心身ともに健全な若者を育てると確信し、限られた地域や一つの国を中心とするものではなく、複数の国が集まって行うスポーツイベントを行うことを試みたといわれている。とはいえ、男女とも裕福で時間にも余裕がある上流階級の人間が中心であったことはいうまでもない。そして、大きなイベントとなれば、莫大な資金も必要となる。そのことは、金持ちの国しかオリンピックを招致できないことを意味しているし、その運営資金を国に依存するということは、スポーツが国の威信高揚やプロパガンダに利用

されてきたことが容易に想像できる（大坪 2007）。

女性とスポーツの第1の流れは、第2次世界大戦が終わる1940年代中ごろまでの時期に見ることができる。この時期、主として男性が作り上げてきたスポーツの世界に、女性たちが参入しようとするのにさまざまな抵抗があった（井谷他 2000）。当時、国際競技会が女性とスポーツの関係を活性化する役割を果たしたといえるが、競技特性として「女性らしい」といわれる種目、たとえばテニスなどのみに限られていた。第2の流れは、1980年前後までの時期で、戦前と異なっていたのは、根拠なく「女性には無理だ」といわれていたスポーツに、女性が挑戦し始めたことであった（井谷他 2000）。そして第3の流れは、1980年以降であり、一般社会での女性運動とあいまって、スポーツでも女性の「参加」から「参画」へと方向づけられた時期である（井谷他 2000）。近年では、政界的に政治・経済などあらゆる分野における女性の活躍は目覚ましく、スポーツでも活躍の場を与えられていることに異議を唱えるものは少ないであろう。

しかしその一方、世界保健機構（WHO）の報告書にもあるように、1980年代から現在に至るまで、学校体育教育が軽視されているのも事実である（Hardman 2005）。また、アジアの多くの地域では、設備や教師の不足、体育教育の質の低さ、女性の体育あるいは体力向上が軽視されていることも報告されている（Hardman 2005）。

この研究の直接の動機になったことは、両筆者ともベトナム留学生と交流してきた中で、ベトナムの女性から体育や運動の話題が出てこないことに疑問を持った点である。杉野は研究分野の一つとして国際交流と女性の地位に興味があり、三村は体育競技（空手道）を通じて、実践的に国際交流をしている点もこの論文執筆のきっかけとなった。ベトナムでは体育教育はどのようなになっているのだろうか。ベトナムの女子学生は、体育に興味を持っているのだろうか。ベトナムでは、スポーツと経済力は結びつけて考えられているのだろうか。そのような疑問を解くために、本論では第一に、ベトナムの教育制度の概観を紹介し、次にベトナムの体育教育の位置づけ、ベトナム女性とスポーツの特徴と問題点の後、ベトナム人33名に体育教育やスポーツについてアンケート調査をした結果と考察を述べる。この論文がベトナムの体育教育を通して、アジア女性の国際社会への進出に多少なりとも貢献できれば幸いである。

1. ベトナムの教育制度

ベトナムは2000年以上にわたって、直接的あるいは間接的に中国の儒教の影響を受けてきた（香川 2008）。たとえば、勉学を促進し、先生を敬うことはベトナムの人々の伝統的な価値観となっている（Education 2006）。また、ベトナム戦争中（1964～73年）、男性が戦争に従事している間に、女性が生産活動を支えていた事実は、その後の教育や女性の地位に影響を与えてきた（香川 2008）。

19 世紀後半から 20 世紀半ばまで、フランスの植民地下では、高等教育はフランス語で行われたので、95% のベトナム人は非識字者とみなされた。それ以来、識字率の上昇と教育の質の向上が国の政策となった (Education 2006)。ベトナム戦争終結後、1975 年に、政府は直ちに 12 年カリキュラム案をだし、南ベトナムで使われていた教科書の代わりに、2,000 万冊の教科書を刷り上げたことも、識字率を上げる努力の一つと言える (Education 2006)。

1980 年代になると、ドイモイ (New Change) 政策とモークア (Open Door) 政策により、市場を開放し、ベトナム社会の経済と文化はグローバルゼーションの波にさらされることになった (Knodel 他 2004)。1989 年になって全国的に学校教育制度が一本化されると同時に、教育訓練省がカリキュラムを変更した。初等教育の 5 年間を義務教育とすることが決まったのは 1991 年になってからである (JASSO 2006)。その教育効果は、初等教育だけでも、1989 ~ 1990 年の落ちこぼれ率が 1990 ~ 1994 年には 6.58% に減少し、留年率は 10.6% から 6.18% に減少したことからもわかる (Education 2006)。

現在は初等教育の 5 年間は義務教育、4 年の前期中等教育、さらに 3 年の後期中等教育、そして大学・カレッジ・技術職業訓練学校などの高等教育が設置されている (JASSO 2006)。

中等教育の目的は、1998 年 12 月のベトナム教育法で、倫理観、知識、健康を伴った人的資源を発達させ、国の独立と社会主義に忠誠であること、つまり、建国と国を守るために個人の性格と能力を育てることであるとした (Nguyen Van Trang 2012)。その目的を達成するために、理論と実践、教育と生産、学校教育と家庭・社会の教育との一体化と、生徒の創造力、自主性、実践的能力などを高める教育を行っている (Nguyen Van Trang 2012)。

ベトナムはまた教育の質を上げることに大変な努力を重ねてきた。1994 年の時点で、ハノイ市がある北部では、ほとんど全員の児童が初等教育を受けていたが、ホーチミン市がある南部では、少なくとも 3 年生まではほぼ全員が通っている程度であった (Waigandt & Cox 1994)。2006 年では、南北合わせて 6 ~ 11 歳の児童の 96% が初等教育を受けているので、政府は、2010 年には前期中等教育でも同様の成果を期待している (UNICEF 2007)。

しかし、とくに技術職業訓練学校と高等教育において、教育の質と効率の低さが未だに課題となっている (Education 2006)。また、人口 8,600 万人中、13% を占める 53 もの少数民族の場合 (少数言語は 100 言語)、ベトナム語での授業についていくのは大変なため、初等教育をうけている比率は 61% に落ちる (GSO 2007, Thao 2010)。少数民族の他に、女子、障害をもった児童なども学校に留まる比率が小さくなっているため、ユニセフはベトナム教育訓練省 (Ministry of Education and Training) と共同で 1,100 の村の初等教育に力を入れている (UNICEF 2007)。

2. ベトナムの体育教育

多くのアフリカ諸国やインド・パキスタンなどのアジアの国々では、体育教育施設と十分な訓練を受けた教師の不足は、広く知られているところである (Hardman 2005)。アフリカやアジアの田舎では、体育をすると女性らしくない身体になるという理由で、女子が体育に参加することを妨げている (Hardman 2005)。また、これらの地域では、宗教や文化的理由で、女子の行動を制限するという不平等や、男性優位のカリキュラムは、先生の質の悪さとともに、明らかである (Hardman 2005)。

ベトナムの場合はどうであろうか。サッカーがベトナムでは最も人気のあるスポーツで、それに次いでバレーボール、バドミントン、レスリングが盛んである (Britannica Online)。オリンピックは、1952 年以来、水泳、武道、ボート競技に参加している (Britannica Online)。体育の授業は個人競技より、サッカー、バドミントン、卓球、バスケットボールなどのチームプレイを重んじた競技を奨励している (Waigandt & Cox 1994)。

御菩薩池 (2010) の現地調査によると、体育の授業時間は小学校の 1 学年では 35 時間、その他の学年では 70 時間である。日本では 2008 年の新学習指導要領より 1～4 年が 105 時間、5・6 年は 90 時間であることから比較すると、ベトナムのほうはかなり少ないことがわかる (御菩薩池 2010)。

以下は、Hoa Hiep 中学校の体育項目である。

2.1 中学の教科内容

ア. 整列整頓

- －内容：気をつけ、左回り、右回り、足踏み、報告要領など
- －対象：女子・男子（強制参加）

イ. 体操

- －内容：（日本の）ラジオ体操に似ている。
- －対象：男女（強制参加）

ウ. 短距離走り（6 m）

- －内容：短距離で瞬発力を発揮する。
- －対象：男女（強制参加）

エ. 長距離走り

- －内容：長距離で持続力を発揮する。
- －対象：男女（強制参加。ただし、女子の距離が短い）

オ. 幅跳び

- －内容：幅跳び
- －対象：男女（強制参加）

カ. ボール飛ばし重み飛ばし

－内容：ボール又は重みを遠く飛ばす。

－対象：男女（強制参加）

キ. 高飛び

－内容：高飛び

－対象：男女（強制参加）

2.2 高等学校の教科内容は以下のである（Thanh Hoa 教育訓練省）

ア. 中学校のすべての科目を復習

イ. サッカー

－内容：サッカーのルール、技術、試合

－対象：男女

（ベトナム学生のコメント¹）男子は強制参加で、女子は希望者のみであるが、ほとんどの場合、女子は参加しない。男子の試合を観覧し、応援する。各高等学校のサッカー専用のグラウンドは殆ど無いため参加者も限られている。教師はほとんどサッカーの経験がないので、授業は、ほとんど自主練習、若しくはビデオ鑑賞である。

ウ. シャトル・コック（足でバドミントンの羽をネット越しに蹴り上げる）

－内容：試合のルール、技術

－対象：男女（選択科目）

（コメント）室内練習場はないため本格的な授業が出来ない。学生は構内で自主練。この科目は重視されていないためだんだんシラバスからなくなるだろう。

エ. バドミントン

－内容：ルール説明、技術、試合

－対象：男女（選択科目）

（コメント）室内練習場がないため本格的な授業が出来ない。選択するのは女子学生が圧倒的である。

オ. 水泳

－内容：平泳ぎ、クローズ

－対象：男女（選択科目）

（コメント）公立学校では、プールはあまりないため本格的な授業ができない。ほとんど女子学生が選択しない。水着姿が恥ずかしいことも原因になっている。

¹ このコメントは主に、研究協力者のター大学院生のコメントであるが、他のベトナムの家族や友人の意見なども参考にしたものである。

カ. バレーボール

－内容：ルール説明、技術、試合

－対象：男女（選択科目）

（コメント）室内練習場はないため本格的な授業が出来ない。（身長が高い）男子学生の選択率も少ない。女子学生は試合の見学と応援だけをしている。

2.3 大学体育授業（Dalat 大学 2008, Thang Long 大学 2005）

ア. 大学の各科目を復習

イ. テーブルテニス（卓球）

－内容：ルール説明、技術、試合

－対象：男女（選択科目）

（コメント）全体的に見ると選択率は低い。センスがある学生だけ参加している。ただし、大学の施設は不十分であるため練習はあまりできない。

ウ. バスケットボール

－内容：ルール説明、技術、試合

－対象：男子学生（選択科目）

（コメント）力強いスポーツであるため女子学生はあまり参加しない。しかも、教育者はバスケットボールの経験がないので授業に熱心でない。

エ. チアリーダー

－内容：チーム試合

－対象：女子学生（選択科目）

（コメント）各大学のチーム編成、試合。しかし、参加する女子学生の人数が少ない。

オ. 生花

－内容：花を飾る

－対象：男女（選択科目）

（コメント）通常、力を必要とする科目を選択できない女子学生向けの科目である。

カ. 紐飛び

－内容：紐飛びの回数で成績をつける科目

－対象：サッカー、バレーボール、バスケットボールなどを選択しない女子学生
（選択科目）

（コメント）簡単な一科目であり、授業はしません。個人練習。

キ. スポーツ・ダンス

－内容：社交ダンス

－対象：男女（選択科目）

（コメント）この授業は文系の大学では流行っている。ただし、参加対象は家族に経

済的力がある人となる。即ち、まだベトナムでは収入的にハイレベルの選択科目である。一般大学ではあまり体育授業には無い。

ベトナムに限ったことではないが、政府の教育資金が不足してくると、体育、保健、美術、音楽のような教科は最初に削除される傾向にある (Hardman 2005)。施設に関して言うと、ベトナムの学校には、運動施設が整っていないことも多く、運動場がなかったり体育館も床がコンクリートだったりする場合がある。運動場がない場合には中庭で体育授業を行ったりしているようだ (御菩薩池 2010)。服装についても、体育の時間に運動着に着替える習慣がなく、制服のまま活動しており、靴もサンダルのようなもののまま行っているようだ。内容についても、一部の教員で決めているという記述があり、日本のように統一された指導要領はない (御菩薩池 2010)。

ベトナム政府は「青少年の健全なる育成はスポーツが最も重要」であるとして、青少年に対するスポーツ普及を最重要課題としている。しかしながら、教育機関、公共の場におけるスポーツ施設の未整備、指導者の不足等と相まってベトナム国内のスポーツ普及は遅々として進んでいない (JASSO 2006)。また、体育は時間割通りに行われていなかったり、他の教科より休講になったりする率が高く、先生の技術は劣っていると Hardman (2005) は述べている。

水泳を例にとると、毎年4歳から14歳の事故が多発しているメコン川沿いの地域では、泳げないことは致命傷である。しかし、その地域のほとんどの学校はプールがないので、ユニセフが、教師に川や湖で水泳の教え方を指導する一方、簡単な安全ネットの張り方などを指導している (Nettleton & Sohn 2005)。また、ユニセフは、こども達に安全の概念を植え付けるように、「injury prevention education」(けが回避教育) も行っている (Nettleton & Sohn 2005)。

Waigandt & Cox (1994) は、教育実習は、中等教育を終えてから教育実習課程のあるハノイ、ダナン、フエ、ホーチミン市で一年半行われるが、難解な国の共通試験の高得点者しか、教育実習課程に入ることができないので、体育の先生の給料は、英語の先生程ではないが、数学や美術の先生と比べると、比較的高い (一ヶ月日本円で2万円程) と述べている。しかし、ター大学院生はインタビューの中で、「教員免許状の教科として一応体育はあるが、教科としての体育の先生になる人はあまりいない。それは他の教科と比べるとアルバイト的にお金が入らないからである」と言っている (2012年4月)。それほど難解な国の共通試験を通過してきた学生は、収入の多いIT関係などに就職する現実がある。

3. ベトナム女性とスポーツ

3.1 国際的なスポーツ振興と女性選手

ドイモイ (New Change) 政策とモークア (Open Door) 政策によるベトナム社会は経済と文化のグローバルゼーションの影響で、家族の形態と女性の役割が変化してきた (Knodel 他 2004)。歴史的にはフランスの植民地時代や、ベトナム戦争下男性が戦争に従事している間に、主要な農業と工業生産は女性によって担われてきた。過去 50 年間、ベトナム政府は男女平等政策をしかけてきたが、家庭における子育て、家事、家計の管理は、男性優位で行われていると Knodel 他 (2004) の研究は明らかにしている。

諸外国ではトップスポーツだけでなく、国民全般に対してスポーツ振興プログラムで運動・スポーツ参加促進をしている (小野 2012)。そのキャンペーンは、目的が多岐にわたっていて、健康の維持増進から医療費の削減、「スポーツが国を良くする」というメッセージの発信、「スポーツは女性を磨き、女性を良くする」女性のスポーツ振興スローガンなどを含んでいる (小野 2012)。

1996 年のアトランタ・オリンピックには、柔道のカオ・ゴック・フォン・トリン女子選手が出場しており、2000 年夏のオリンピックでは、Tran Hieu Ngan (チャン・ヒエウ・ガン) 選手が女性で初めてメダルを獲得した (Britannica Online)。オリンピック競技ではないが、バレーボールに似た Takraw という競技で、ベトナムチームはアジア大会で活躍している (Britannica Online)。

しかし、オリンピックにおける競技者は日本に比べると圧倒的に少ない。

3.2 女子学生における体育状況

前述のように、アジアの多くの地域では、設備や教師の不足、体育教育の質の低さ、女性の体育あるいは体力向上が軽視されていることも報告されている (Hardman 2005)。「体育は小学校、中学校で 1 週間に 1 回。男子はサッカー、走り幅跳び、棒高跳び、女子は高校では家庭科になる」と、インタビューでター大学院生が述べているように、高校のサッカーやバレーボールの授業は、女子はほとんどの場合、男子の試合を観覧し、応援する、女子学生は試合の見学と応援だけをしているだけのようだ。

女子の体育の授業は、強制参加科目は少ないため、女子学生の体力がこの数年改善されない。女子学生の選択科目で、力強い科目を避ける傾向が多い (Dalat 大学 2008)。また、例年、体育の競技は少ないので各教育機関の体育交流の機会はない。(ハノイ工科大学 1992, 2008)。中・高・大学では、運動クラブ (部活動) のシステムがないため、学生はスポーツに参加することは少なくなり、特に、女子学生はスポーツに参加する人数は限られている (Dalat 大学 2008)。また、体育の先生はほとんど男性であるため、女子学生向けの科目は重視されていない (TUE NGUYEN 2011, KIM NGAN 2012)。

基本的に、ベトナムの教育機関では、体育施設が十分に重視されていないため授業の実施は困難であることに加え、女子の体育授業は軽視されていること実態が見えてきた。

4. ベトナム体育科教育制度の問題点

ベトナム人の習慣では、小さい頃から体力をつけるという意識がない。中学・高校・大学に入っても、その考え方は変わらない (NGUYEN TOAN & NGUYEN SY HA 2004)。また、教育上では体力検定はないため体力向上の意識は薄い (Thang Long 大学 2005)。そのような考え方と相まって、以下の 10 点が主な問題点と考えられる。

問題点の 1 つは、体育施設の不足である。例をとると、室内練習場、プール、競技場などの設備が整っていないので、学生は実際の競技や練習をする場がないのである (HUY THO 2006)。体育への予算はないため練習の道具、服装、機材などはほとんどない。本格的な教育はできない (ハノイ工科大学 1992 & 2008)。

第 2 に、教育教材は時代遅れであり、新しい技術を先生方が導入する方法について確立されていない点である (HUY THO 2006, TUE NGUYEN 2011)。例えば、棒高跳びを例にとると、技術は変わっているのに、体育教師の教育は例年通りに同じ技術を教えるだけであり、学生は最新の方法を知ることができないため、学生の意欲は減少する (HUY THO 2006, TUE NGUYEN 2011)。

第 3 に、体育授業の内容も統一されていないため、各学校・大学は自らのシラバスを作成し、校内の施設によって体育授業を実施している。さらに、中学校、高等学校、そして、大学での体育体操の基準とレベルが定められていない (Dalat 大学 2008, Thang Long 大学 2005)。

第 4 に、体育教育者は少ない。体育の職業はあまり人気がないため体育科から卒業した先生の人数はあまりいない。そのため、中学校・高等学校では、体育の授業の休講は少ない (Dalat 大学 2008)。

第 5 に、体育の時間数が少ないのに、すべての種目を取り入れようとするため、学生への負担が大きくなっている。しかも内容はほとんどルールの説明などである。そして体育の試験は実技ではなく、筆記試験になっているところが多いため、体育の重要性がなくなっている、という点である (HUY THO 2006, BAO TAM 2012)。この筆記試験が、逆に、学生に負担になっている (Dalat 大学 2008)。

第 6 に、選択科目が多くても、実際に学生に選択させることはあまりない。つまり、体育の先生が種目を決め、学生は決められたものを選択することになる (TUE NGUYEN 2011, KIM NGAN 2012)。

第 7 に、体育授業では、すべての学生が同じように教育される。才能のある学生を育てるシステムではないため、学生たちのやる気はあまりない。例えば、水泳が上手な学生が水泳

を練習できるわけではなく、その時に決まった種目（例えばサッカー）の授業を受けなければならない。人材育成の予算は、ほかの専門学科よりも少ない（Kim Ngan 2012, TUE NGUYEN, 2011）。

第8に、安全管理をしっかりとやっていないため授業中の事故が多発する。学生の健康診断が実施されていないので、学生の健康状況を把握していないからである。故に、授業中に学生の健康に異変が生じてすぐには対応できないのが現状である（NGUYEN TOAN & NGUYEN SY HA 2004）。学校側が学生の健康状態を管理できないために、学生自身が健康状態を自主的に管理するしかない（Dalat 大学 2008）。体育の授業でいきなり激しい運動をすると学生の健康状態が悪化し、最悪の場合、死に至るという場合もあった（Binh B. Chu 2003）。

第9に、体育の先生の教育方法が面白くない。中学校から大学までの学生の声を調査すると「つまらない時間」「役に立たない時間」「居眠り授業」などの声が多かった（Kim Ngan 2012, TUE NGUYEN 2011）。その理由の1つは、中学から大学まで同じ体育科目が繰り返されるため、新しいことは導入されない。選択科目はあるが、実際には理論のみであるため、「時間つぶし」のような授業内容であり、出席さえとれば、あとは学生が好きなことをやっていいというような授業形態もある（HUY THO 2006）。

第10に、体育授業の評価が不適切。学生の健康状態や性別は考慮されていないので、体育授業の再試験は約70%以上といわれている（NGUYEN TOAN & NGUYEN SY HA 2004）。

ベトナムの文化科学省は体育の改造計画は進んでいると言っているが、各大学では十分な予算がないため、現状の改善はかなり困難であると思われる。

5. アンケート調査

前述の先行研究の中で、ベトナムでは体育は教科の中であまり重要視されていない、経済的分野では国際的發展を奨励しているのに、女性の保健体育は軽視されていること、高校・大学では体育は楽しくなかったという記述から、実際に、ベトナム人はそのように感じているかという点をアンケートで明らかにしてみた。

アンケートの内容は、筆者2人と本研究協力者のター大学院生と話し合ってアンケート項目を作った（付録1 参照）。日本語のアンケートをベトナム語に訳し（付録2 参照）、それをター院生の同僚のベトナム人留学生に試しに答えてもらった。アンケート協力者は、日本に留学しているベトナム人、他の国に留学しているベトナム人、ベトナムにいるベトナム人の3グループに分かれる。

実施要領は、以下の3つの経路、東工大のメリングリストと YahooMessage グループと Facebook を通じて、ネットにアップして回答してもらった。ベトナム語で書かれた回答を

日本語に訳したものが、以下の分析結果である。

5. 1 アンケート結果

パート 1 (調査協力者の背景となる情報) 選択肢から当てはまる番号を選択 (母数は 33 人)

(1) 年齢	1. 19 歳以下	0 人	0%
	2. 20-29 歳	22 人	67%
	3. 30-39 歳	11 人	33%
	4. 40 歳以上	0 人	0%
(2) 性別	1. 男性	21 人	64%
	2. 女性	12 人	36%
(3) 現在の居場所	1. ベトナム	19 人	58%
	2. 日本	9 人	27%
	3. その他	5 人	15%
(4) 最終学歴	1. 高校卒	1 人	3%
	2. 専門学校卒	0 人	0%
	3. 大学卒	22 人	67%
	4. その他 (在学中、大学院卒など)	10 人	30%
(5) 職業			内、修士 (9 人)
	1. 学生	8 人	24%
	2. 会社員	15 人	45%
	3. 軍人	6 人	18%
	4. 主婦	2 人	6%
	5. その他	2 人	6% (IT 開発者、営業)

パート 2 (ベトナムの体育科教育について)

(1) 小学校の時、水泳やサッカーなどを練習するためのスポーツセンターに通っていましたか。

1. はい	10 人	30%
2. いいえ	0 人	0%
3. 無回答	22 人	

水泳 (2 か月、毎年夏休み、1 年のみ)、サッカー (1 年以上、1 年)

武道 (2 年間、1 年) 射撃 (1 年)

(2) 高校～大学の時、体育の授業は一週間に何時間ありましたか。

高校	1 時間 (12 人)	2 時間 (17 人)	3 時間 (2 人)	6 時間 (1 人)
大学	0 時間 (3 人)	1 時間 (13 人)	2 時間 (10 人)	5 時間 (1 人)
	6 時間 (1 人)	7 時間 (1 人)	15 時間 (1 人)	

(3) 体育の授業は楽しかったですか。

1. とても楽しかった。	1 人	3%
2. 楽しかった	22 人	67%
3. あまり楽しくなかった	7 人	21%
4. 全然楽しくなかった	2 人	6%

(4) 「とても楽しかった、楽しかった」と答えた人は、その主な理由を二つ選んでください (多い順に表記)。

1. 体を動かすことが楽しかったから	15 人	83%
2. スポーツが好きだから	10 人	56%
3. 好きなスポーツ選手がいたから	2 人	11%
4. 異性にもてたかったから	0 人	
5. 先生が熱心だったから	0 人	
6. その他	0 人	

(5) 「あまり楽しくなかった、全然楽しくなかった」と答えた人は、主な理由を二つ選んでください。

1. やりたいスポーツがなかった	4 人	44%
2. 講義だけだったから	4 人	44%
3. 体を動かすのが嫌だったから	3 人	33%
4. 体操用具がそろっていなかったから	2 人	22%
6. 先生が熱心ではなかった	0 人	0%
7. その他、道具 (用具) がないから。		

(6) 体育の先生になりたいと思ったことはありますか。

1. ある	1 人	3%
2. ない	32 人	97%

「ある」の理由 「健康になる」

「ない」の理由

- 好きではない (7 人)

- 体力がない
- (体育の先生は) 貧乏だから、給料が低いから (5 人)
- 先生という職業が好きではないから、他の職業の方が好き (4 人)
- 適切ではない (2 人)
- (自分のスポーツの) 能力がないから (3 人)
- つまらないから (3 人)
- なんで体育の先生なんかになるのか (1 人)

(7) スポーツ選手になりたいと思ったことはありますか。

1. はい 2 人 6 %
2. いいえ 30 人 91 %

「はい」の人は何のスポーツですか。その理由はなんですか。

- サッカー選手、サッカーが好きだから
- 水泳選手、水泳が出来ないから

(8) スポーツはベトナム女性の自立や経済力の向上と結びつくと思いますか。

- そう思わない 6 人 (女性 3 人、男性 3 人)
- そうは思わない。女性と男性とも体力を維持するだけ (男性、日本在住)
- ベトナム人は最近運動することが少なくなっている。体力が必要ない仕事の人は運動をしません。いつもコンピュータを使っているため健康には良くない。体育をちゃんとすると体力がついてきます。そのため、仕事もちゃんとできるし、経済力の向上とつながると思っています (男性、ベトナム在住)
- 体育は人間の健康に良いし、ストレス発散の効果もあります。そのため、生活と仕事に良い影響があると思います。自信と経済力の向上は、体育の影響の一部だけだともいます (女性、ベトナム在住)
- そうは思わない。体育は、女性の体力を向上させ、健康的な生活と安定的な仕事ができると考えます (女性、ベトナム在住)
- そうは思わない。もしいるとしても、とても少ないと思います (男性、ベトナム在住)
- 体育は、女性の体力を維持する効果があります。それは、仕事の後、ストレスを発散できるからです (女性、ベトナム在住)
- 体育は、女性の健康をサポートできますが、スポーツは、ベトナム女性の自立や経済力とむすびつくとは思わない (女性、ベトナム在住)
- スポーツ活動は常に行う必要があります。長期的に見て、経済力を保つことは無理かもしれません (男性、日本在住)
- 健康維持効果あるのみで、経済力には関係ありません (男性、日本とベトナム在住)

- 関係ないと思います。経済力は必要ない。なぜなら女性は家族のことが大事だからです（男性、ベトナム在住）
- 信じないですが、スポーツをすると健康になります。健康ならお金にもなります。男性にも女性にも言えることだと思います（男性、女性、その他の国在住、男性、日本在住、男性、ベトナム在住）
- スポーツをすると、己に勝つ精神があるので、自分の能力を超える場合もあるので、自立と経済力につながると思います（男性、ベトナム在住）
- もしスポーツ能力があれば、女性はスポーツ選手になり、国内と国際試合に出る機会がたくさんあるので自信につながります。選手の給料は高いし、経済力の向上にもなります。引退後もコーチになれるので、スポーツはベトナム女性の自立と経済力の向上とむすびつくと思う（男性、ベトナム在住）

6. 考 察

33人の調査協力者にアンケート調査をしたわけだが、インターネットという媒介を使ったせいか、97%が大学卒以上という高学歴の集団となった。そのうち、軍人が6人というのも興味深い。ベトナムでは軍人でも日本や各国に留学している学生も多く、また軍が経営する会社勤めも多いので、職業を一つだけ選択するのはむずかしかったかもしれない。

パート2 (2) の、「小学校の時に水泳やサッカーなどを練習するためにスポーツセンターに通っていましたか」という問いに、10人(30%)が「はい」と答えた。これは「ベトナム人の習慣では、小さい頃から体力をつけるという意識がない。中学・高校・大学に入っても、その考え方は変わらない (NGUYEN TOAN & NGUYEN SY HA 2004)」に一致しなかった。日本のGABA (2010年3月16日)の調査では、もっとも多くの小学生が通っている習い事は「スイミングスクール」で、22.1%とほぼ5人に1人の計算になるという結果が出たが、ベトナム人の回答者の期間は短いながら、この数字よりも多いものになった。

(3)「体育の授業は楽しかったですか」という問いに対し、文献では体育の時間が楽しくないという記述が目立ったが、アンケートの結果では33人中23人(70%)が、「とても楽しかった」と「楽しかった」と答え、同様にその理由は「体を動かすことが楽しい」が83%、「スポーツが好き」が56%となっていることから、アンケート対象者の学校の多くで体育授業が実施されており、一部を除き講義中心のものではなく、実技として実施されていたことが推察される。

「あまり楽しくなかった」と「楽しくなかった」は、33人中9人いたが、その理由として、「講義だけだったから」、「体操用具がそろっていなかった」は、文献の内容と一致する。

(6)「体育の先生になりたいと思ったことがあるか」の回答は、ほぼ全員が「ない」であった。その理由は、本文中のコメント、「(体育の先生は) 給料が少ない」「つまらない」

などと一致する。

(7)「スポーツ選手になりたいと思ったことはありますか」という問いも、ほぼ全員が「いいえ」と答えた。日本では、海外での日本選手の活躍などを通し、スポーツと経済力、ひいては女性競技者と自立という考え方は一般に受け入れられている。現に、日本の小中高校生を対象に、将来になりたい職業についてたずねた調査結果をみると、小中学生男子では1位「野球選手」、2位「サッカー選手」とスポーツ選手が上位にならんでいる²（ベネッセ教育研究開発センター 2007）。しかし、アンケート（7）スポーツ選手になりたいと思ったことはあるかという問いに、91%が「いいえ」と答えたのは、体育の先生はお金にならないと答えたように、まだスポーツ＝経済力やスポーツ＝生涯の職業と結びついていないのも一因であると考えられる。

最後に（8）「スポーツはベトナム女性の自立や経済力の向上とむすびつくと思いますか」という問いには、在住場所（日本、ベトナム、その他）、性別、職業に関係なく、健康や体力の維持は大事であると答えつつも、ほぼ全員が「経済力とはむすびつかない」という答えであった。

7. 結論と示唆

以上、文献から、またベトナム学生のコメントやアンケートから、ベトナムの体育、特に女性と体育教育の関係をみてきた。ベトナムは長くは中国の影響、後にフランスの植民地となり、ベトナム戦争で国土も国民の安全や健康も損なわれてきた。1980年代からの政府の市場開放政策により、経済的にも教育面でも飛躍的な躍進をとげてきた。しかし、前述のように、教科としての体育の設備、教育法、教師の質の面で解決しなければいけない点がたくさんある。特に、女子の体育教育は、その理念を含めて、改善の余地が大きいと思われる。

筆者（三村）が12年前にベトナムで空手道を指導した際、選手は男女とも運動能力が高く、指導されたことをすぐに体現しようとしていた。ナショナルチームのメンバーであったから当然かもしれないが、ジュニア世代の選手も貪欲に練習をしていた。そのような点から考えると、設備と教師の質さえ整えば、これからベトナムでも女性の競技者が台頭してくるであろうし、彼女たちがオリンピックやその他の国際舞台で活躍すれば、国民全体のスポーツに対する意識も高くなるであろうと思われる。

² 3位以下には、小学生は「医師」「研究者・大学教員」「大工」といった専門職や技術職、中学生では「学校の先生」「医師」「公務員」といった安定した職業が並んでいる。一方、小中学生女子では1位「保育士・幼稚園の先生」2位「看護師」と従来からの女性の専門性を活かした職業が依然として人気が高い。スポーツは11位だった。（Benesse教育研究開発センター 2007）。

謝辞

本研究の執筆にあたり、東京工業大学 大学院情報理工学研究科計算工学専攻タミントイン助手に、研究協力者として、インタビュー、コメント、アンケートデータの収集やまとめに多大なる協力をして頂いたで、ここに感謝の意を表したいと思います。

(付録 1)

以下は、ベトナムの体育科教育についてのアンケートです。データは研究のためだけに厳密に処理いたしますので、ご理解、ご協力のほどを宜しくお願い致します。

パート 1 ご自分のことについてお答えください。()の中に数字を書いてください。
選択肢の番号が書いてある時は、あてはまる数字に丸をつけてください。

- (1) 年齢: 1. 19 歳以下 2. 20-29 歳 3. 30-39 歳 4. 40 歳以上
(2) 性別: 1. 男 2. 女
(3) 現在の居住場所: 1. ベトナム 2. 日本 3. その他 _____
(4) 最終学歴: 1. 高校卒 2. 専門学校卒 3. 大学卒
4. その他 (在学中、大学院卒など) _____
(6) 職業: 1. 学生 2. 会社員 3. 軍人 4. 主婦
5. その他 _____

パート 2 ベトナムの体育科教育について

(1) 小学校の時、水泳やサッカーなどを練習するためスポーツセンターに通っていましたか。

1. はい 2. いいえ

「はい」の人は、何のスポーツを _____ 何年 _____ 練習しましたか。

(2) 高校～大学の時、体育の授業は、一週間に何時間ありましたか。

(高校) 一週間に _____ 時間 (大学) 一週間に _____ 時間

(3) 体育の授業は楽しかったですか。

- 1 とても楽しかった 2 楽しかった 3 あまり楽しくなかった 4 全然楽しくなかった

「とても楽しかった、楽しかった」と答えた人は (4) へ

「あまり楽しくなかった、全然楽しくなかった」と答えた人は (5) へ

(4) 「とても楽しかった、楽しかった」と答えた人は、理由を二つ選んでください。

1. 先生が熱心だったから
2. スポーツが好きだったから
3. 体を動かすことが楽しかったから
4. 好きなスポーツ選手がいたから
5. 異性にもてたかったから
6. その他 _____

(5) 「あまり楽しくなかった、全然楽しくなかった」と答えた人は、主な理由を二つ選んで書いてください。

1. 先生が熱心ではなかった
2. やりたいスポーツがなかった
3. 講義だけだったから
4. 体を動かすのが嫌いだったから
5. 体操用具がそろっていなかったから
6. その他 _____

(6) 体育の先生になりたいと思ったことはありますか。

1. ある _____ その理由 _____
2. ない _____ その理由 _____

(7) スポーツ選手になりたいと思ったことはありますか。

1. はい
2. いいえ

「はい」の人は、何のスポーツ _____ ですか。その理由 _____

(8) スポーツは女性のベトナム女性の自立や経済力の向上とむすびつくと思いますか。自由に意見を書いてください。

(付録2)

ベトナム語版：

<https://docs.google.com/spreadsheet/viewform?formkey=dFVJaFNOOUc2U2k3d01XUXhkazZiOUE6MA#gid=0>

日本語版：

https://docs.google.com/spreadsheet/ccc?key=0Ap_NENaIkOdGdFZjRzRZZXU4SGFyWjdEZUs4WlVnMFE#gid=0

参考文献

- 大坪正則 (2007)『スポーツと国力』 朝日新聞社
- 井谷恵子、田原淳子、来田享子 (2000)『女性スポーツ白書』 大修館書店
- 小野清子 (2012) スポーツ白書、渡邊一利 (編) 笹川スポーツ財団
- 香川孝三 (2008)「フィールド・アイベトナムから」『日本労働研究雑誌』 No. 573、April 2008, 102-103.
- 産経EX (2012)『サウジ女性 五輪へのゲート開けた 20歳馬術選手 初の出場容認』 2012年6月26日
- 御善薩池 (2010)「ベトナムにおける現地教育事情等に関する調査」『東京学芸大学国際教育センター 在外教育施設指導実践記録 第34集』
- JASSO 海外高等教育機関調査 (2006)『ベトナム留学情報』
- ベネッセ (Benesse) 教育開発センター (2007)『Benesse 教育研究開発センターが選ぶ「調査データ クリップ! 子どもと教育」』 2007 年 12 月 11 日
- BAO TAM (2012).『体育先生の授業の時間割が不適切』BAO MOI オンライン新聞、2012 (記事 in Vietnamese) : <http://www.baomoi.com/Bat-cap-trong-che-do-lam-viec-cua-giang-vien-Giao-duc-the-chat/59/7738668.epi>
- Binh B. Chu (2003). *Physical activity and fitness of Vietnamese adolescents - cultural, environmental, and socio-economic factors*. Unpublished PhD thesis.
- DaLat 大学の体育教材、2008
- Education in Vietnam: Development history, challenges and solutions. (2006) Retrieved 2012/05/25.
<http://www.files.pace.edu.vn/.../educationvietnamanddevelopment.pdf>
- GABA (2010)「子どもの教育に関する保護者の意識調査」(2012年3月16日)
www.garbagenews.net
- GSO (2007). Multiple survey 2006.
- Hanoi (ハノイ) 工科大学、学生のための体育教材、1992 & 2008
- Hardman, K. (2005) An up-date on the status of physical education in schools worldwide: Technical report for the world health organization. *World Health Organization*. 1-14.
www.icsspe.org/documente/PEworldwide.pdf.
- Hoa Hiep 中学校、体育のシラバス (2011-2012)
- HUY THO (2006).『体育教育の改革が必要がある』TUOI TRE オンライン新聞 (記事 in Vietnamese)
<http://thethao.tuoitre.vn/Su-kien-binh-luan/179585/Can-thay-doi-chuong-trinh-day-the-duc.html>
- KIM NGAN (2012).『大学の非効率的体育授業』、DAI DOAN KET オンライン新聞、2012 (in Vietnamese)
- Knodel, J. Vu Manh Loi and others. Gender roles in the family: Change and stability in Vietnam. *Population Studies Center (PSC) Report* No. 04-559. 1-25.
- Nettleton, S. & Sohn, J. (2005). UNICEF- *At a glance: Viet Nam - Viet Nam: Swimming, a vital life skill for children*. Retrieved 2012/05/28
http://www.unicef.org/inforbycountry/vietnam_27595_Html
- NGUYEN TOAN & NGUYEN SY HA (2004)『体育教育理論』ホーチミン教師大学、体育科。(in Vietnamese)
- Nguyen Van Trang (2012). *Secondary education in Vietnam. Ministry of Education and Training*.
- Thang Long 大学、体育教科書、2005.
- Thanh Hoa 教育訓練省、体育のシラバス (2009-2010)
- Thao, Dinh Phuong (2010). Multilingual education as a way towards achieving quality Universal Primary Education in Vietnam: good practices and policy implications, *Language and Education MDG Conference 2010*.
- TON DUC THANG 大学 (2012)『体育授業の選択科目、体育科専用情報』(in Vietnamese)
http://ts.tdt.edu.vn/index.php?option=com_content&view=article&id=424&Itemid=117
- TUE NGUYEN (2011).『体育授業が怖い：教育方法と受講態度の変更』
THANH NIEN オンライン新聞、2011 (記事 in Vietnamese)
<http://www.thanhnien.com.vn/pages/20110211/so-mon-the-duc-se-thay-doi-cach-day-va-hoc.aspx>

UNICEF (2007) *Viet Nam- Education- Overview*. Retrieved 2012/05/25

<http://www.unicef.org/vietnam/girls-education.html>.

Vietnam: Visual arts. *Britannica Online Encyclopedia*. Retrieved 2012/05/28

<http://www.britannica.com/EBchecked/topic/828349/Vietnam/260887/Visual-arts>.

Waigandt, A. & Cox, R. H. (1994). Physical education in Vietnam. *Journal of the International Council for Health, Physical Education, Recreation, Sport, and Dance*, 30 (4), 28-31.

(すぎの としこ 本学教授)

(みむら ゆき 防衛大学校講師)